

## 子供の歩行中の交通事故（1）

交通事故総合分析センター 研究部 主任研究員 山口 朗氏  
（「交通安全教育」2017年2月号）

はじめに

これは（一財）日本交通安全教育普及協会が発行している「交通安全教育」誌から内容を抜粋したものである。図の一部も同論文から引用させていただいた。表題や文中の「子ども」は「子供」と表記させていただく。次回、続編をレポートする。

### ■ 7歳児の死傷者数が際立って多い

歩行中の死傷者数は、7歳児が際立って多い。同センターが調べたところ、1995年は4,596人であり、年々減少しているものの20年間連続して突出しているようである。

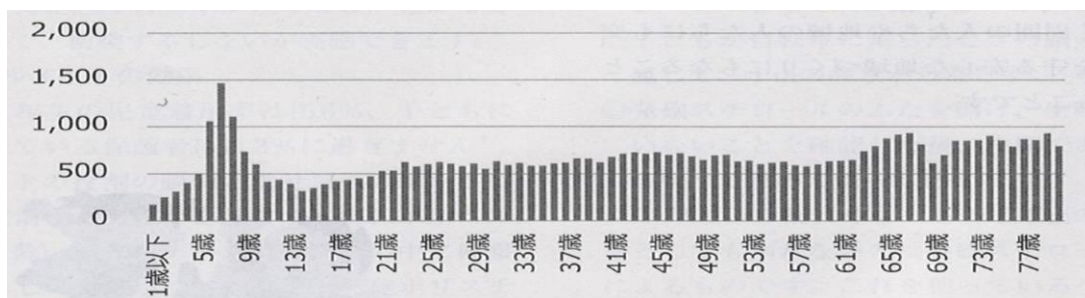


図1 年齢別 歩行中の交通事故 死傷者数（2015年）

図2は非常に興味深いものである（進級が遅れた児童の死傷者数は除いてある）。未就学の6歳児が226人に対して、1年生の6歳児が831人と激増している。

これは、保育園や幼稚園に通っているうちは、保護者や機関が送迎を行い、外出する際も保護者が付き添っているから死傷者が少ないが、入学すると子供だけで行動することが原因と考えられる。

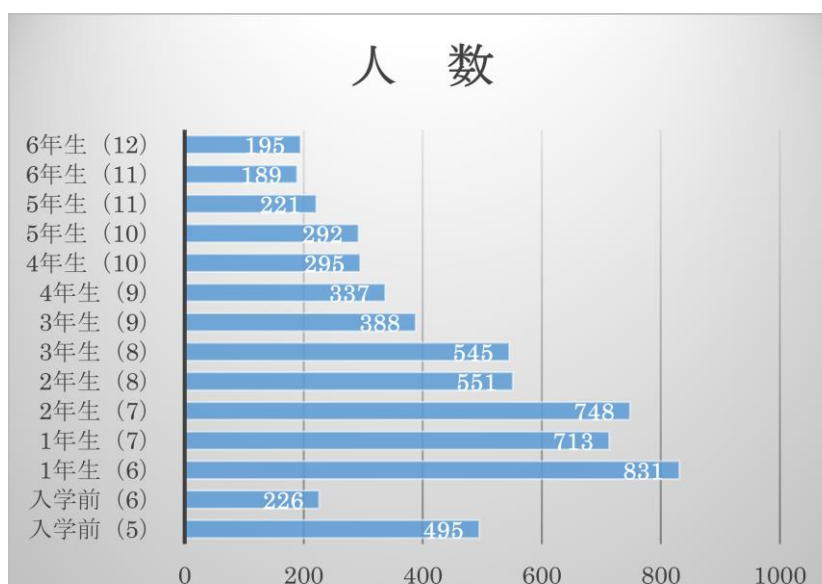


図2 学年・年齢別 歩行中の交通事故死傷者数（2015年）

■ 通行目的別特徴

図2を見ると、死傷者数は、5歳児が495人、6歳児が1,057人、7歳児が1,461人と年齢が上がるにつれて500人ずつ増加している。

図3は目的別に表したもので、7歳児では登下校時が最多で526人である。5歳児は34人であり「登下園」と呼ぶべきか保護者等が付き添っているの少ない。また、遊戯中の事故は、5歳児が93人、7歳児が257人と非常に多くなっており、小学校に入ると道路で遊ぶ子が多くなるのだろう。

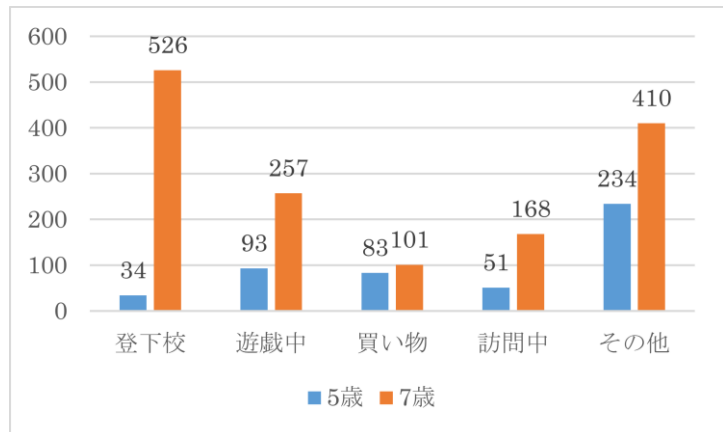


図3 通行目的別 歩行中の交通事故 死傷者数 (5歳及び7歳 2015年)

■ 性別による特徴

図4は歩行中の交通事故による死傷者中、男性の人数を女性の人数で割ったものである。

成人は、男性が主として屋外で働くからか、男性の比率が高く、小学生以下では年齢が下がると男児の比率が高くなっている。

また、64歳以上では女性のほうが、比率が高くなっている。免許を持たない高齢女性に事故が多い。

このレポートでは図を省略するが、飛び出し事故の割合は、小学1年生は男児35%、女児27%、2年生は男児34%、女児28%となっている。また、飛び出し、横断違反、信号無視等の違反のあった者は、小学生の各学年とも50%以上となっている。飛び出し事故等を防ぐのは相当困難なことである。小学生を見つけたら、特別な注意を払う必要がある。

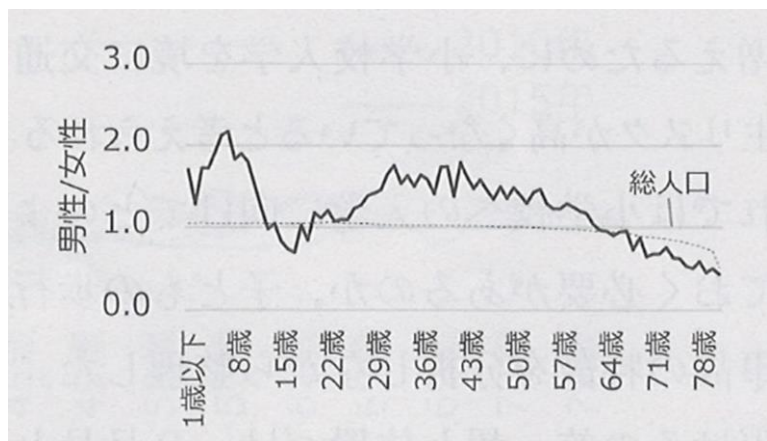


図4 歩行中の交通事故 死傷者数 年齢別男女比 (2015年)

以上